



今月のお題 **【親知らず】** ってなに？

痛みや腫れを起こす親知らずはお口の中のやっかいもの(；ー_ー)でも、いざ抜くとなると勇気がいりますね。親知らずの抜歯は他の歯を抜くときに比べてなぜ大変なのでしょう？そして、どのような親知らずが抜く必要があるのでしょうか？今月は親知らずの謎に迫ってみました！！

謎その1：親知らずってどんな歯？

奥歯の、そのまたいちばん奥に、そしていちばん最後に生える歯。18歳から20歳くらいで生えてくることが多い。人間の一生が短かったころにはすでに親は死んでいなかった年齢であったため、「親知らず」と呼ばれています。近年、日本人のあごは食事の種類や噛む回数の減少によって小さい傾向にあります。生えるころにはすでに他の歯が生えそろうているので、スペースが不足している人が増えています。そのため、水平に生えたり、傾斜して生えることがあります。

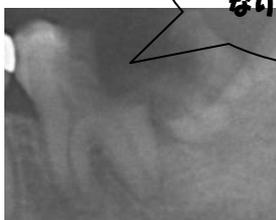
謎その2：抜いても大丈夫なの？

昔と比べて食べ物が柔らかくなった現代では親知らずはその役割を終えて退化傾向にあります。そのため通常、**抜歯しても困りません**。例えて言えば、盲腸のようなもの。取り除いてしまっても困ることはありません。

謎その3：まだ痛くないのになぜ抜歯するの？

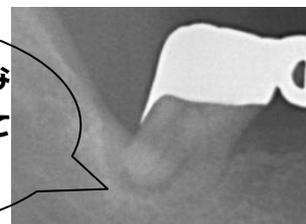
トラブルがすでに起こっているときでなく、近い将来トラブルが予測される患者様には歯科医師は「抜歯が必要です」とお伝えします。トラブルを起こしやすい歯は、下あごの親知らずが大半です。症状の悪化を回避し、予防するためには抜歯で原因を取り除く方法しかないからです。

手前の第2大臼歯が虫歯になる



清掃が行き届かず、**フ**ラクが貯まりやすくなります。

手前の第2大臼歯が歯周病になる



炎症の為に支えとなっている骨が溶けてなくなっています

こんなトラブルありました